



大杉っ子

令和6年9月2日
学校便り9月号
江戸川区立大杉小学校
校長 藤田 曉美

教育目標：すすんでとりくむ子 おもいやりのある子 けんこうな子

家庭の教育力のすごさ

副校長 青木 隆

暑くて長い44日間の夏休みが終わり、一段とたくましく成長した295名の大杉っ子たちが学校に帰ってきました。新たな転入転出児童もなく、本日2学期のスタートをしました。

私は以前、教育委員会に勤務していたことがあり、そこで実際にあった話です。ある学校の6年生の「全国学力・学習状況調査」の結果がその区で最下位でした。しかし翌年、1位になりました。最下位から1位、この急激な変化の裏には何があったのか。私はその学校に行き、校長先生にお話を伺うと「それは保護者の方、家庭の協力のお陰です。」と即答でした。

具体的には、以下の2点でした。

- 1 保護者が毎朝、朝学習の時間に学校に来て、担任と一緒に勉強を教えてくれた。
- 2 保護者主導で家庭学習の取組を実施し、自分の子が「国語（特に漢字）」「算数」の何ができていないのかを把握、できるようになるまで問題を繰り返し解いた。

この保護者の頑張る姿に教師もより一層学習指導に、授業改善に力を入れ、学校全体の雰囲気が変わったとのことでした。この変化の中で、ある児童が「一生懸命勉強しているのに成績があげられない」と母親に打ち明けました。その母親は「テスト前に教科書の問題を解くこと、授業で書いたノートを繰り返し読んで覚えること」の2つをアドバイス。そして、それを実践した児童は、算数・国語のテストで常時満点を取れるようになりました。母親は、「成績があげられないのは、勉強の仕方がわからないだけで、家庭で勉強法を教えてあげればよい」と。さらに、これ以降、勉強法を身に付け、さらに家庭学習を習慣付けた児童は、着実に成績を上げていきました。

私たち教師も、教育活動全体を通じて子どもたちに「学力」「体力」「道徳感」等を身に付けさせていくことが仕事であり、使命ですが、この話を聞き、「保護者の力、家庭の教育力って、こんなにすごいのだ」と改めて感じました。今月9日（月）から「大杉っ子・家庭ルール週間」の取組が始まります。ぜひお子さんと一緒に取り組み、お子さんに合った「勉強法」を考えられるとよいと思います。

最後になりますが、地域及び保護者の皆様、どうぞ2学期も大杉っ子のためにお力添えをよろしく願いいたします。